令和８年度第１回高知県産業振興計画フォローアップ委員会観光部会　議事概要

日時：令和８年10月20日（火）　14:00～16:00
場所：高知共済会館　３階　「桜」
出席：部会員10人中、９名が出席
議事：（１）　令和８年度上半期の進捗状況について
　　（２）　目標の達成見込みと強化ポイントについて
報告：大河ドラマを生かした観光振興基本計画について

新開部会員が部会長に、谷脇部会員が副部会長に決定。
議事（１）及び議事（２）並びに報告事項について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

（北古味部会員）
・国際線の誘致について、韓国以外の状況を教えてもらいたい。
・龍馬学園の留学生には２か国語以上を話す人材がおり、SNS発信などを通じて日本国内にいる他の外国人の誘客も期待できる。県内の外国人材が、観光に関わってもらえるような人材育成の取組をしてはどうか。
・ジョン万次郎は日本の多文化共生の第一人者であるということを、県民だけでなく県外の外国人に向けても発信していきたい。高知市中心部にジョン万次郎の関連施設が少ないため、高知駅前にジョン万次郎の像を新たに建てることはできないか。

（高知県観光振興スポーツ部小西部長）
・韓国航路については、県内の旅行会社にも協力してもらいながら、誘致を進めているところである。韓国の航空会社の合併や原油価格の高騰などの状況もあるが、粘り強く取り組んでいきたい。韓国路線以外については具体的な動きがない状況であるが、県民の皆さんにもジョン万次郎のことを知ってもらうため、例えば、ハワイ、マサチューセッツ、ボストンなどとのチャーター便の運航ができないか、というような夢のある話も考えてみたい。
・外国人留学生の就職先については、ホテルや旅館などに就職してもらえるよう取り組んでいるが、地域通訳案内士としても活躍してもらえるのではないか。高知で学び、高知を好きになっていただいた留学生には、ぜひ高知で働いてほしい。留学生が活躍できる場については、全庁的にも考えていきたい。
・大河ドラマを、ジョン万次郎の功績を知ってもらえる機会にしたいと考えており、教育委員会とも連携しながら、様々な取組を考えていきたい。ジョン万次郎の像については、過去にも高知駅前に新たな像を立てることを検討したことがあるが、スペースの問題で物理的に難しいという結論になっている。

（森田部会員）

・地域観光商品造成（資料１の６ページ）の令和８年度の取組の中の、「地域通訳案内士によるガイドを組み込んだ高付加価値商品」とは、具体的にどのようなものを想定しているか。

・近年、私が経営しているホテルの宿泊者の中で、外国人観光客が自転車を持ち込み、自転車で四国を周遊している方がとても増えている。このような海外からサイクリング目的で訪れた方が高知を訪れたきっかけなど、県の方で統計調査をしているか。

（高知県地域観光課別府課長）

・地域観光商品については、これまでに 75 商品を造成してきたところである。今後は、これまで造成してきた商品に、地域通訳案内士によるガイドを組み込むなどして、ブラッシュアップしていくことを検討している。

（高知県観光振興スポーツ部小西部長）

・高知城から MY 遊バスを使い、五台山、桂浜を巡るガイド付きの商品が、外国人に人気がある。また、オプショナルツアーの中で、大型バスに通訳ガイドが乗り込んで案内するというようなものがある。これまでに造成した観光商品をつなぎ合わせたり、ガイドと組み合わせたりしながら、外国人にも受け入れられるような商品となるよう、手探りで進めているところ。

（高知県スポーツツーリズム課山田課長）

・サイクリストの動向については、外国人だけでなく日本人についてもこれまで把握できていなかったため、今年度初めて調査を実施し、個人で来られた方の平均宿泊日数が 1.3 泊、１日あたりの消費金額が 10,749 円ということが、今年度の調査で分かってきたところである。インバウンド向けの広報については、サイクリングアイランド四国推進協議会で４県で連携してＰＲしており、県内のインバウンド専門のツアーガイドを組んでいる事業者が複数あることや、県外からツアーで高知に入ってくるという動きがあることは、我々としても把握している。高知県サイクリング協会と連携し、県内での消費額を増やす仕組みについて協議が始まったばかりの状況なので、今後は宿泊事業者様にも実感してもらえるような施策を検討していきたい。

（谷脇部会員）

・第５期産業振興計画における観光分野の戦略目標の１つに「県内全産業平均と比較した宿泊業の所定内給与額の水準」を令和９年までに 90%とする目標を立てていただいている。今年度実施した所得向上推進企業等総合支援事業費補助金については、来年度も継続して実施されるのか。

・スポーツ合宿を受け入れるための食事の提供ができる宿泊施設が限られてきており、宿泊と食事を別の宿泊施設で行うようなことも起きてきている。今後スポーツ合宿を誘致するにあたり、受入可能な宿泊施設の把握はできているのか。

・閑散期対策として、今年度は平日宿泊キャンペーンや食キャンペーンにより旅行需要の平準化に取り組んでいただいているが、今年度の事業効果を検証したうえで、来年度も閑散期対策をお願いしたい。

（高知県観光振興スポーツ部小西部長）

・所得向上推進企業等総合支援事業費補助金については、今年度は予算額を上回る申請があった。来年度についてはまだ明らかにはなっていないが、所得を向上させ、若者や女性に選ばれる高知県を目指すことは、県の人口減少対策の要である。いただいた意見は担当課に共有するが、観光振興スポーツ部としても、観光事業者の皆さんの所得向上については、違った角度からも検討していく。

・食事が提供できる宿泊施設が市内でも限られてきており、宿泊施設とスポーツチームをうまくマッチングしなければならない状況ではあるが、今まで来ていただいているチームについては、宿泊施設のご協力をいただきながら続けていきたいと考えている。

・閑散期対策についても、継続して取り組んでいきたい。

（二宮部会員）

・人材確保の取組（資料１の３ページ）における「新規登録宿泊事業者数：15 施設」とはどういう取組なのか。

・大河ドラマ放送決定でジョン万が盛り上がっているが、ジョン万次郎がどういう人物なのかわからないという声も聞いている。小学生から高校生までに冊子を配布する取組などにより、大河ドラマ放送後には、子どもから大人まで皆がジョン万次郎のことを知っているようになってほしい。

・土佐清水市の宿泊施設や観光施設などから、夏にこれ以上観光客が増えても受け入れられないという声を聞く。自分たちとしても、冬場にもお客さんを呼べるような新たな取り組みを進めていかなければならないと感じている。

（高知県観光政策課矢野課長）

・人手不足に対応するため、働きながら旅をする「おてつたび」という民間事業者が提供するサービスがあり、今年度は説明会を行うなど、連携して取組を進めている。今年度新たに 15 の宿泊施設の登録があったもの。

（赤池部会員）

・コロナ禍以降、携帯電話のビッグデータの活用が広がっている。ビッグデータを活用した観光振興については、産業振興計画の中にしっかりと位置づけておく必要があるのではないか。合わせて、観光施設や公共交通の面で AI のサポートがあることで、観光客の満足度が向上することも考えられる。将来的な AI の観光での利用について、議論した方が良い。

・連続テレビ小説や大河ドラマの追い風がある中、これまで観光部会で議論してきた「サステナビリティツーリズム」の考え方が忘れられつつあるのではないかと危惧している。環境負荷低減、多文化共生、文化振興などの持続可能性というものを産業振興計画に明確に位置づけてもらいたい。

（高知県地域観光課別府課長）

・現在、携帯電話の位置情報を活用して、訪れた方の性別、年代、発地、目的地などの人流データを購入し、ツールに取り込んで分析を行っている。県内の観光地など約 2000 地点に

ついて、一定時間以上滞在した方を来訪者とみなし、そこからどのように動いたかなどについて分析している。県の方でデータ分析の勉強会を今年度は２回開催しており、年度内にもう１回開催予定である。
・サステナブルツーリズムについては、本日の資料には記載はないが、持続可能な観光振興に取り組むという根幹の部分に変わりはない。

（赤池部会員）

・私も利用したことがあるが、とても細かくポイントを押さえていると感じる。個別の事業者がデータに直接アクセスできないことはわかっているが、二次利用という形で、事業者がより活用できるようにしていただきたい。

（町田部会員）

・私は、都内を中心に、高知の食に興味のあるシェフとコラボして、百貨店の催事などで、高知の食を使った出店をしている。高知の食はとても魅力的で、多くの店がある都内でも、他の店との差別化ができるという声も聞いている。都内のプロのシェフが高知の食材を使用したメニューを提供するようになれば、継続的な食材の活用が見込めるため、プロのシェフに向けた高知ツアーなどのアプローチが効果的である。食材生産者の売上が大きく伸びることもあるし、食事に訪れたお客さんが高知県を訪れてもらうことにもつながる。

（高知県観光振興スポーツ部小西部長）

・食は非常に重要であると認識しており、今年からは宿泊事業者の協力を得ながら食のキャンペーンを始めている。今後「ジョン万」関連のプロモーションを行う中で、町田部会員のおっしゃったシェフのネットワークなども活用させていただけないか、検討させてもらいたい。

（近澤部会員）

・令和６年から、どっぷり高知旅キャンペーンの商品造成が始まり、私も３年間携わってきた。これまで造成してきた商品のフォローアップを行う中で、「造成した商品が売れない」「インストラクターがいない」「値上げして良いか」などの不安の声をよく聞く。令和６年以前から体験商品を販売している方たちも含めて、アドバイザー派遣などによりフォローをしてもらいたい。

（高知県観光振興スポーツ部小西部長）

・商品造成をしたものの、売れなくて不安になるということは理解できるため、しっかりとフォローしていく必要がある。高知県観光コンベンション協会には、旅行会社からの出向者もいるので、そのようなプロの方たちがアドバイスできるような取組も検討する。

（岡崎部会員）

・新県民体育館については、立地条件も良いので、ライブコンサートも受け入れられるようなアリーナとなることを期待している。
・旅行会社向けのファムツアーの内容が似たようなコースとなっている。高知県は東西に長

く、私が同行するファムツアーも西部方面ばかりである。西部方面だけでなく、東部方面でも、ゴルフ、サイクリングなどを活用して、広域連携で多様なモデルルートを整備できればよい。

・北古味部会員から、高知駅前にジョン万次郎の像を新たに建てられないかという件で、入れ替えという方法もある。土佐清水市まで行ってもらうのが一番良いが、交通アクセスが不便でもあるので、高知市内の美術館などにも、ジョン万次郎の特別展示などがあっても良いのではないか。

・高知県の川・海のアクティビティなどを活かし、カヌー体験や田舎寿司づくり体験など、オフシーズンの修学旅行、卒業旅行、部活動合宿の誘致を模索できないか。

（高知県観光振興スポーツ部小西部長）

・新県民体育館については、3500 人を収容できるコンサートも開催できるようなアリーナを作る計画である。

・地域の特性を生かしたモデルルートというのは大切な視点である。大河ドラマ放送に向けて、これまでのモデルルートをアップデートできる点がないか、広域観光組織とも一緒になって考えていきたい。

・修学旅行などを通して、若い人に高知に来てもらうことは重要であるが、都会の学校は生徒数が多い場合があり、全員が乗れる飛行機の機材の問題や、ホームステイをする場合の受け入れ先とのマッチングの面で課題もある。しかしながら、若い人に高知県でどっぷり体験をしてもらうことは重要だと思うので、まずは小規模な学校から挑戦していきたい。

（新開部会長）

・これから準備が進められる大河ドラマ館を、小学生や中学生の社会科見学先とすることで、地域全体で理解と郷土愛を育む取り組みを推進してはどうか。

（高知県観光振興スポーツ部小西部長）

・教育委員会と連携し、ラーケーションの取組を進めようとしているところである。小中学生の遠足などで足摺岬や SATOUMI に行ってもらえるような、もう少し幅広い視点でも施策を検討していきたい。